

# 教育委員会 成果報告

教育長 吉川 雄二

教育部長 内田 弥昭

## 部局達成度

			
-	21	-	12

## 総括

学校教育においては、子どもたちが生き生きと学校生活を送ることができるよう、学校、家庭、地域の連携を深めながら、充実した質の高い学校教育に努めました。併せて、今後の本市の学校のあり方について、福井市学校規模適正化検討委員会において検討しました。また、安全安心でおいしい給食を持続的に提供していくため、新学校給食センターの整備に向けた基本計画を策定しました。さらに全ての中学校において「部活動に係る活動方針」を策定し、計画的な部活動運営を行うことで教員の多忙化解消や生徒の身体的・精神的負担の軽減につなげました。

社会教育においては、子どもから高齢者までの全市民が学習やスポーツに取り組まれるよう環境整備に努めました。生涯学習環境整備として、順化公民館について順化小学校との複合化改修工事を完了し、スポーツ環境整備として、福井市スポーツ推進計画を改訂し市民の関心の更なる向上を図りました。

また、郷土の貴重な文化財や文化遺産を確実に保存し、後世に継承するため、指定文化財の修理事業に対して支援を行ったほか、国選定の重要な文化的景観を目指し、「越前海岸の水仙畑と農村景観」保存活用計画を策定しました。

今後も、全国トップクラスの教育環境のさらなる充実と「ふくい」が誇る歴史、伝統、文化の磨き上げを目指し、組織目標達成のための取り組みを着実に進めていきます。

## 組織目標ごとの達成状況

- ・ 児童生徒をきめ細かに支援し、子どもたちが生き生きと学校生活を送るための充実した学校教育を行います

子どもたち一人ひとりが「生きる力」をバランスよく身につけるため、学校、家庭、地域の連携を深めながら、充実した質の高い学校教育に努めてきた結果、目標通りの成果が得られました。

学校ごとに地域連携一覧表を作成し、学校行事や地域連携のねらいを明らかにし、家庭・地域・学校が目指す子どもの姿を確認しました。

児童生徒に一人ひとりに応じたきめ細かな指導により「確かな学力」の育成を図るとともに、体験活動を通して豊かな心を育むことに努めました。

今後も、地域や家庭との連携を密にし、一人ひとりの子どもたちに応じた丁寧な教育を進めていきます。

## ・学校における安全対策を充実し、食育と運動部活動、体力向上を推進して、子どもたちの心身の健全な発達に努めます

通学路安全対策として、各学校から寄せられた危険箇所の改善要望について、福井市通学路安全推進会議において、交通安全・防犯・防災の各観点から合同点検を実施し、関係機関と連携しながら改善に取り組みました。その結果ガードレールの設置や歩行者用青信号の時間延長、警察のパトロール強化、通学路照明灯の設置などの改善ができました。

学校給食では、児童・生徒に安全安心でおいしい給食を持続的に提供していくため、新学校給食センターの整備に向けた基本計画を策定しました。また、食育の推進として、地場産食材による和食給食や「東京オリンピック・パラリンピック応援給食」を実施し、「ふくいのおいし」や世界各国の代表的な料理を給食に取り入れ、給食時間の校内放送や栄養教諭等による食育指導を行いました。子ども達が郷土料理や異国の食文化に触れ、その国の料理や風習を学ぶとともに、オリンピック・パラリンピックへの機運も高めました。

中学校の運動部活動においては、全ての学校において「部活動に係る活動方針」を策定し、練習時間や休養日に関する内容を明確にし、保護者に公開した上で進めることで、学校が考える部活動の意義や目的を保護者と共有化が図れ、年間を通しての計画的な部活動運営につなぐことができました。

今後も、通学路の安全対策と学校給食施設の充実を図るとともに、児童生徒の体力づくりに努めていきます。

## ・家庭や地域、関係機関・団体と連携し、青少年の健全育成を進めます

地域全体で子どもたちの安全確保と健全育成に努めるとともに、家族のふれあいと明るい家庭づくりの推進を図り、家庭の教育力の向上に努めました。

また、青少年育成福井市民会議の各支部で実施している見守り活動を支援するとともに、関係機関と連携し、不審者情報の速やかな発信に努めました。さらに、子どもたちのネット被害やいじめ、ネット依存等を防止するため、全小中学校において情報モラル講習会を実施し、インターネットの適正利用にかかる啓発を行いました。

少年自然の家では、子どもたちが自立性や豊かな感性を育めるよう、自然を活かした体験学習の場を提供するとともに、利用者のニーズに即して特別開所日を設定するなど、利便性の向上と利用者数の増加を図りました。

放課後留守家庭児童が安全・安心に過ごすことができる環境を整えるため、児童クラブの整備を行い、定員を拡充しました。また、児童クラブ職員の負担軽減のための支援やリーダー養成研修を実施するなど、職員の資質向上に向けた取り組みを実施しました。

今後も、家庭や地域、関係機関・団体と連携し、青少年の健全育成を進めます。

## ・安全で快適な学習環境を整えるために、施設の整備・改修を進めます

防災機能強化では、拠点避難所となっている小学校体育館の窓ガラス飛散防止対策を実施しました。

学校生活環境の整備では、トイレの洋式化改修、順化小学校の大規模改修工事及び足羽中学校の校庭整備工事を実施するとともに、社北小学校の大規模改修工事に着手しました。

今後も、安全で快適な学習環境を整えるために施設の整備・改修を進めます。

## ・市民一人ひとりの自主的な学習活動を支援し、市民憲章運動を進めます

地域の生涯学習やコミュニティ活動の拠点である公民館については、計画通り整備することができました。

公民館事業については、多様な学習ニーズに応じた魅力ある学習プログラムを実施するなど、多くの学習機会を提供できました。

また、市民一人ひとりが福井らしさを再発見し、郷土福井に誇りと愛着を持つための福井学や、世代間交流事業の推進についても着実に実施してきました。

福井市を美しくする運動や花いっぱい運動への市民の積極的な参加など、市民憲章運動の更なる意識醸成が図られましたが、猛暑や台風などの荒天による事業中止、新型コロナウイルス感染防止対策による活動の自粛などもあり、参加者目標を達成することができませんでした。

今後、市民一人ひとりの自主的な学習活動を支援するとともに、市民憲章の新たな実践目標の啓発に努めます。

## ・生涯スポーツを推進し、市民の豊かなスポーツライフを支援します

今年度は、市体育施設条例の一部を改正し、料金体系の見直しや指定管理者を一本化することで、新年度からの利便性の向上と利用者数の増加に繋げる準備をしてきました。

施設マネジメントアクションプランで「機能廃止の方向性」としている施設については、地権者や利用者への説明会を通して、有効活用や借地の返還について協議をしてきましたが、今後も、本市の考え方についての理解を求めながら、施設の方針をまとめていきます。

また、福井市スポーツ推進計画は策定後5年を経過し、社会情勢が変化したことから、スポーツに対する市民の関心の更なる向上を図るため、本計画を改訂しました。

さらに、フルマラソンに関しては、県と連携して大会の開催に向けた準備に取り組んでいくことを確認しました。来年度は検討委員会を設立し、開催に向けた検討を進めていきます。

今後も、市民一人ひとりが、「する」「みる」「支える」といった観点からスポーツに親しみ、楽しむことができる環境整備に取り組んでいきます。

## ・文化遺産を保存継承するとともに、文化財の公開と活用を進めます

郷土の貴重な文化財や文化遺産を確実に保存し、後世に継承するため、指定文化財の修理事業に対して支援を行うとともに、無形民俗文化財の保存団体が取り組む後継者育成事業を支援しました。また、越前海岸の水仙畑の景観保全と観光活用のため、国選定の重要文化的景観を目指し、「越前海岸の水仙畑と農村景観」保存活用計画を策定しました。

文化財保護センター及びおさごえ民家園では、文化財を身近に触れることができる展示や昔の暮らしを体験できる学習会を開催し、学校・公民館等で行う勾玉づくり等の出前事業についても目標を達成することができました。

今後も、楽しみながら体験する学習会や展示、出前事業で郷土の豊かな歴史や文化に触れ、学ぶ取組を進め、文化財を福井の誇りとして大切に保存し、将来に継承していく意識の高揚を図ります。

・児童生徒をきめ細かに支援し、子どもたちが生き生きと学校生活を送るための充実した学校教育を行います

1	地域と連携した学校づくり	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	一人ひとりの子どもの育ちを支えていくために、家庭・地域・学校協議会の開催や教育活動の地域への公開などを通して、家庭、地域、学校のつながりを強めるとともに、三者が一体となって子どもたちの教育について考え、行動する気運の醸成を図ります。十年以上継続してきた教育ウィークは、今後も充実を図りながら継続していきます。		
取 組 内 容	各小中学校において、保護者や地域と連携した授業や活動の実施 各小中学校において、家庭・地域・学校協議会の開催 「教育ウィーク」(10月～12月)の市民への周知・広報及び授業公開や活動の実施 「福井市中学生サミット」の開催(12月24日) 保護者や地域と連携した授業や活動の実施 家庭・地域・学校協議会の開催		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
ゲストティーチャーを招いた授業の実施 : 全小中学校 1学級当たり 延べ6人 授業ボランティアの活用 : 全小学校 1学級当たり 延べ6人 地域と関わる取組の連携調整会議 : 全中学校区	ゲストティーチャーを招いた授業の実施 : 全小中学校 1学級当たり 延べ5人 授業ボランティアの活用 : 全小学校 1学級当たり 延べ6人 地域と関わる取組の連携調整会議 : 全中学校区		
成 果 ・ 課 題	<p>各小中学校において年に3回程度、家庭・地域・学校協議会を開催し、教育活動について協議しました。</p> <p>また、全ての小中学校で10月から12月にかけて実施した「教育ウィーク」に併せ、各学校にポスターを掲示したり、本市のホームページで一覧表を公開したりするなど、市民への周知・広報を行いました。</p> <p>さらに、教育ウィーク中だけでなく、年間を通して各幼稚園、小中学校では保護者や地域と連携した授業や活動を定期的に行いました。各学校においては、ホームページや学校便りを通じて活動内容を公開し、家庭、地域、学校のつながりを強めるとともに、三者が一体となって子どもたちの教育について考え、行動する気運の醸成を図りました。専門的な知識や技術をもつゲストティーチャーや、授業ボランティアにより、一層充実した教育活動を進めることができました。</p> <p>ただし、ゲストティーチャーを招いた授業の実施については、3月の新型コロナウイルス感染症対策のための一斉休業により、数値目標を達成できませんでした。</p> <p>地域と関わる取組については、これからの地域との取組を吟味・精選するための調整会議をすべての中学校区で行いました。</p>		

2	学力充実のための教育活動	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>全国トップクラスの小中学生の学力がさらに向上するように、一人ひとりの児童生徒に応じたきめ細かな指導を通して学ぶ意欲を引き出し、知識及び技能を活用して思考力・判断力・表現力を育み「確かな学力」の育成を図ります。</p> <p>また、「地域に根ざす『学びの一貫性』」を目指して、中学校区ごとに目指す子どもの姿を共有し、保幼小中連携の充実に取り組みます。</p> <p>さらに、これからの時代に対応した教育や、ふるさとへの愛着と誇りを育む教育を推進するため、中核市として独自の研修を進めます。</p>		
<b>取 組 内 容</b>	<p>全国学力・学習状況調査研究委員会の開催（8月1、2、5、6、20、22、23日）</p> <p>他校への授業公開や出前授業の実践 全小中学校</p> <p>小中学校合同研修会・授業研究会 全中学校区</p> <p>保幼小接続推進の計画と実施 全小学校区</p> <p>学校図書館支援員の配置 22人（全小中学校）</p> <p>教職員課題別研修の受講率 100%</p> <p>全国学力・学習状況調査結果の公表、リーフレット発行（9月4日）</p> <p>福井大学教職大学院拠点校・連携校における研究発表会の開催（11月20日、11月21日）</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>他校（園を含む）への授業公開や出前授業の実践</p> <p>： 全小中学校 1校当たり6回</p> <p>中学校区単位での研究会・研修会</p> <p>： 全小中学校 1校当たり12回</p> <p>教職員課題別研修の受講</p> <p>： 全教職員</p>		<p>他校（園を含む）への授業公開や出前授業の実践</p> <p>： 全小中学校 1校当たり5回</p> <p>中学校区単位での研究会・研修会</p> <p>： 全小中学校 1校当たり12回</p> <p>教職員課題別研修の受講</p> <p>： 全教職員</p>	
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>授業や指導の改善に役立てるため、市小中学生の全国学力・学習状況調査結果を分析して、成果と課題に基づいた授業や指導の改善点をリーフレットにまとめ、9月上旬に全小中学校の教員向けに配付しました。</p> <p>また、全国学力・学習状況調査結果をホームページで公表し、学校と家庭や地域がそれぞれの成果と課題を把握して具体的な改善に努められるよう働きかけ、更なる学力向上や円滑な学校運営が進められるようにしました。</p> <p>さらに、各中学校区では、これまでの中学校区教育を土台にして、園小中の円滑な移行のために交流授業や合同研修会等を実施し、学びの一貫性への取組が充実しました。</p> <p>加えて、他校（園を含む）への授業公開や出前授業の実践では、指導主事訪問の授業公開日等と同じ中学校区で行われる授業公開を、同学年の教員が参観したり授業研究を行ったりするなど、積極的に取り組みました。</p> <p>ただし、他校（園を含む）への授業公開や出前授業の実践については、新型コロナウイルス感染症対策のため、2～3月に予定していたほとんどが中止となり、数値目標を達成できませんでした。</p>		

3	豊かな心の育成	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>道徳教育や人権教育の充実を図るとともに、次代を担う子どもたちが社会の一員としての自覚を持つために、人や自然との触れ合い、国際交流作品展などの文化芸術の鑑賞、連合音楽会などの様々な体験を通して豊かな心を育てます。</p> <p>福井市環境学習プログラムに基づき、各幼小中学校において発達段階に応じた環境学習を行うとともに、節電・節水やゴミ減量リサイクル等の活動を実施します。</p> <p>また、学校図書館蔵書数の標準を満たし、読書活動を推進します。</p>		
	<b>取 組 内 容</b>	<p>連合音楽会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校 : 4部 福井市文化会館(6月20日~21日)</li> <li>・中学校 : 3部 福井市文化会館(6月13日~14日)</li> </ul> <p>「福井市環境学習プログラム」の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員向け学習会(福井市教職員課題別研修)の実施(8月9日)</li> </ul> <p>幼児演劇鑑賞教室の開催 : 3回 福井市文化会館(10月24日~25日)</p> <p>劇団四季「こころの劇場 福井公演」 : 2回 フェニックス・プラザ(10月21日)</p> <p>国際交流作品展の開催 : 福井市美術館(11月20日~26日)</p> <p>「福井市学校版環境ISO認定制度」の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境学習プログラムの取り組みの一つとして、取組内容の確認やアドバイスを目的に市民等と市職員が6校を訪問(東安居小、春山小、社南小、森田小、羽生幼小、明倫中)</li> </ul> <p>○小中学校の学校図書館図書標準 : 100%達成</p>	
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>幼児演劇教室の開催</p> <p>: 2日間で3回公演(公立幼稚園・公立保育園・認定こども園 5歳児対象)</p> <p>福井市環境学習プログラムの取組</p> <p>: 全幼小中学校</p> <p>学校図書館図書標準の達成率</p> <p>: 小学校全体 100%</p> <p>中学校全体 98.7%(平成30年度)</p> <p>100%(令和元年度)</p>		<p>幼児演劇教室の開催</p> <p>: 2日間で3回公演(公立幼稚園・公立保育園・認定こども園 5歳児対象)</p> <p>福井市環境学習プログラムの取組</p> <p>: 全幼小中学校</p> <p>学校図書館図書標準の達成率</p> <p>: 小学校全体 100%</p> <p>中学校全体 100%</p>	
<b>成 果</b>	<p>幼児演劇教室は、計画どおり2日間で3回の公演を行いました。</p> <p>全幼小中学校で「ESD(持続可能な開発のための教育)」の視点を取り入れた「福井市環境学習プログラム」に取り組みました。各学校では、年度始めに作成した「実施計画」に基づいて、目標達成に向けて取組内容を見直しながら実践を進めました。訪問した学校では、授業、清掃、委員会、部活等の様々な場面で子どもの環境学習が取り組む姿が見られました。年度末には各学校が取組を「実施報告書」にまとめました。来年度も引き続き、各学校において環境学習に取り組み、SDGsの取組へと発展させていきます。</p> <p>また、小、中学校ともに学校図書館図書標準が100%を達成しました。</p>		
<b>課 題</b>			

4	幼児教育の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>幼児一人ひとりが多様な体験を通して、心身共に調和のとれた成長ができるようにします。  また、全小学校で「わくわく交流デー」を開催するなど保幼小の円滑な接続を図り、保育園や幼稚園及び認定こども園における教育の成果が小学校につながるように、就学前教育を支援して質の高い幼児教育を提供し、園児及び保護者の満足度の向上を図ります。  今年度新たに、公立幼稚園児が多数での交流を体験する「なかよし交流保育」を実施します。</p>		
取組内容	<p>なかよし交流保育の開催 : 5月21日、7月9日、7月17日、8月21日、11月7日、11月28日(延べ6回)  交流保育の開催 : 9月18日、9月25日(延べ2回)  わくわく交流デーの開催 : 小学校ごとに1回(2月4日)  接続推進計画による連携交流 : 全小学校区内で3回以上実施</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>接続推進計画による連携交流の実施  : 全小学校区内で3回以上  交流保育の開催  : 延べ2回  なかよし交流保育の実施  : 延べ4回</p>		<p>接続推進計画による連携交流の実施  : 全小学校区内で3回以上  交流保育の開催  : 延べ2回  なかよし交流保育の実施  : 延べ6回</p>	
成果・課題	<p>接続推進計画による連携交流の3回のうちの1回を、本市全体で行ったため、他小学校区を取組や先進校の取組を知る機会となり、各小学校区が取組を見直す視点を持ちながら、年度後半の連携交流を進めることができました。また、全小学校で行われた新1年生の小学校1日体験「わくわく交流デー」でも、学校規模に合わせて、新1年生と園児と小学生が関わり合う活動を重視した取組が行われました。  複数の公立こども園と公立幼稚園が合同で行う「交流保育」、複数の公立幼稚園で行う「なかよし交流保育」では、園児の交流だけでなく、職員が保育について学び合う機会となりました。また、交流当日だけでなく、その前後の各園での遊びとつながることで、普段の遊びもより充実しました。  来年度は、公立幼稚園2園が休園・閉園となるため、交流の形を再検討し、交流保育を充実させていきます。</p>		

5	特別支援教育の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>福井市特別支援教育地区別協議会を中心に就学前から特別支援教育体制の整備に努め、特別支援教育コーディネーターが中心となって、各学校の指導計画と教育支援計画を作成し、保育園、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校間の円滑な移行支援を図ります。</p> <p>また、障がい児の就学や支援について、教育支援委員会を設置して就学相談及び教育相談を行います。</p> <p>さらに、いきいきサポーターを小中学校に配置し、発達障がい等で配慮が必要な児童生徒に個別の支援を行います。</p>		
<b>取 組 内 容</b>	<p>特別支援教育専門委員会の開催 3回（8月23日、12月26日、2月27日）</p> <p>特別支援教育コーディネーターを全小中学校に配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の特別支援教育コーディネーター対象に連絡会の開催 3回（4月18日、10月17日、1月23日）</li> <li>・市全域協議会の開催 3回（4月18日、10月17日、1月23日）</li> </ul> <p>令和2年度就学児相談会 3日間（7月24～26日）</p> <p>既就学児童生徒相談会 3日間（8月7日～9日）</p> <p>教育支援委員会の開催 8回 （4月23日、5月16日、7月1日、7月22日、7月30日、9月17日、12月12日、2月13日）</p> <p>いきいきサポーターを市内全小中学校に85人配置</p> <p>7月、8月に開催された就学相談会を受けて、継続的に就学相談を実施</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>特別支援教育コーディネーターの配置 ： 全小中学校</p> <p>教育支援委員会の開催 8回</p> <p>いきいきサポーターの配置 84人</p>		<p>特別支援教育コーディネーターの配置 ： 全小中学校</p> <p>教育支援委員会の開催 8回</p> <p>いきいきサポーターの配置 85人</p>	
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>特別支援コーディネーターを、全小中学校に配置しました。</p> <p>また、特別支援教育の推進に向けて、市全域協議会を開催するとともに、外部機関との連携や校内支援体制についての研修及び協議を実施しました。また、園と小学校の連絡会、小中学校連絡会を実施し、円滑な移行支援を図りました。</p> <p>特別支援教育専門委員会では本市の特別支援教育の課題について協議し、整理しました。今後も関係機関が連携した協議会や専門委員会を開催し、更なる特別支援教育の充実を図ります。</p> <p>教育支援委員会では、年2回（7月、8月）就学相談会（就学児相談会、既就学児童生徒相談会）を実施し、学校における支援や就学先に関する情報提供を保護者に行い、その後も継続的に保護者と相談を行うことで、就学先について合意形成を図りました。</p> <p>また、いきいきサポーターを85名配置し、通常学級で特別な支援を必要とする子どもたちへの支援の充実を図りました。</p> <p>今後も、福井市特別支援教育専門委員会、地区別協議会を中心に、特別支援教育体制の整備に努めます。</p>		

6	通うのが楽しい学校づくり	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	学校不適応児童生徒の教育相談等、支援の充実に努めます。また、適応指導教室において児童生徒の学びの場や心の居場所づくりを行います。実効性のある指導体制や組織的な相談体制を構築し、家庭、地域、学校及び各関係機関が情報を共有して、適切な支援体制づくりに努めます。		
取 組 内 容	<p>学校不適応児童生徒の教育相談等、支援の充実のため、県の事業と連携したスクールカウンセラーの全小中学校への配置</p> <p>チャレンジ教室における保護者対象の研修会（第1回親の会）の開催（6月13日）</p> <p>チャレンジ教室における第1回保護者懇談会の開催（9月29日）</p> <p>いじめ、虐待に関する調査の実施（5月）</p> <p>チャレンジ教室における保護者対象の研修会（第2回親の会）の開催（11月14日）</p> <p>チャレンジ教室における第2回保護者懇談会の開催（1月19日）</p> <p>チャレンジ教室における保護者面談の開催（2月14日～29日）</p> <p>いじめ、虐待に関する調査の実施（10月、3月）</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>小学校カウンセラーの出動数</p> <p>： カウンセラー1人当たり100回</p> <p>チャレンジ教室における保護者対象の研修会及び懇談会 ： 5回</p> <p>いじめ、虐待に関する調査の実施 ： 3回</p>		<p>小学校カウンセラーの出動数</p> <p>： カウンセラー1人当たり100回</p> <p>チャレンジ教室における保護者対象の研修会及び懇談会 ： 5回</p> <p>いじめ、虐待に関する調査の実施 ： 3回</p>	
成 果 ・ 課 題	<p>小学校カウンセラーについては、各学校の児童数に応じて派遣しました。福井市適応指導教室「チャレンジ教室」にも週1回以上派遣し、通室生の相談にあたりました。</p> <p>また、チャレンジ教室における保護者対象の研修会では、福井大学の臨床心理士や福井県教育総合研究所教育相談センター職員等を講師に招き、研修会を実施しました。</p> <p>さらに、学校不適応対策推進会議では、教職員向けに「学校が主となるケース会議の進め方」と「不登校が改善された事例集」を作成し、教員対象の通信ネットワーク上にもデータをアップしました。事例集に関しては、今後も様々な事例を随時追加し、不登校対策としての取組を継続していく予定です。来年度始めには、各学校に配布し教育相談部会でも各学校の担当に配布する予定です。</p> <p>今後も、学校不適応児童生徒の教育相談等、支援の充実に努めていきます。</p> <p>また、虐待の恐れのある家庭への追跡調査やいじめの件数や態様等の調査を行い、きめ細かな対応につなげました。今後も、いじめや虐待への対応を充実させていきます。</p>		

7	国際理解教育の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>令和2年度から実施となる新学習指導要領の中で、5、6年生は週2回の外国語科、3、4年生は週1回の外国語活動を行うこととなります。福井県は平成30年度からこれを前倒して実施しています。小学校3～6年生の全学級にALTを派遣し、担任が行う外国語活動および外国語の授業を支援します。</p>		
	<b>取 組 内 容</b>	<p>小学校専属ALTによる小学校訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10人の小学校専属ALTが、5、6年生については月に2時間程度、3、4年生については2ヶ月に1時間程度の割合で外国語科・外国語活動の授業において担任を支援した。</li> <li>市教委担当者と小学校専属ALTの情報交換</li> <li>・月1～2回程度、宝永小のALTオフィスにて、情報交換や打合せ確認等を行った。</li> <li>・市教委担当者がALTが支援している授業を参観し、支援のあり方について指導をした。</li> <li>・市教委担当者が、各小学校から提出された報告書の内容を小学校専属ALTと共有し、来年度の指導に生かすように指導した。(3月)</li> </ul> <p>福井市教職員課題別研修への講師としての参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中に開催される福井市教職員課題別研修に、小学校専属ALTを講師として派遣し、小学校教員の英語力・授業力向上を目指した。(7月)</li> </ul> <p>公開授業でのT2としての関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校外国語教育指導者養成研修(全国の指導主事・小学校の外国語教育担当者対象の研修)での公開授業で小学校専属ALTがT2として支援した。当日に向けて、訪問回数を増やしたり、マイクロティーチング(教職員を児童に見立てた模擬授業)をしたりした。</li> <li>・指導主事訪問の提案授業にT2として関わったときには、小学校専属ALTも研究協議会にも参加し、自己研鑽に努めた。</li> </ul>	
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
ALTの年間派遣回数 : 4,845回		ALTの派遣回数 : 4,689回	
<b>成 果</b> <b>・</b> <b>課 題</b>	<p>令和2年度より、全国において、小学校5、6年生では外国語科が、小学校3、4年生では外国語活動が全面実施されます。福井県では、外国語科と外国語活動の導入をスムーズに行うために、2年前倒しで前年度より既に先行実施しています。</p>		
	<p>今年度も計画通り、小学校専属ALTを派遣し、学級担任、教科担任を支援してきました。また、ALTが研究授業や公開授業に関わることで、ALTとしての望ましい支援のあり方や本市の目指す英語教育を理解することができました。</p> <p>しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、3月3日より臨時休業措置がとられたことにより、目標訪問回数を達成することができませんでした。</p> <p>小学校からの報告書の内容をALTと共有したことで、ALT自身、学校が自分たちに求めていることを理解することができました。来年度以降の外国語・外国語活動の授業に、より効果的な支援ができるよう、ALTの力量向上を目指します。</p>		

8	情報教育と教育の情報化の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	ICTを活用した教育を推進するために、ICT環境の整備を進め、児童生徒や教員の情報活用能力の向上や事務の効率化を図ります。		
取 組 内 容	<p>指導主事訪問等の学校公開期間においてタブレットを用いた授業公開を小・中学校で実施  プログラミング教育の実施に向けて、福井市教職員課題別研修、小教研視聴覚部会パソコン研修、学校からの要請研修で研修を実施  事務効率化に向け今年度導入した福井市中学校諸帳簿管理システムの講習会を実施  グループウェアを活用した事務効率化のため福井市小学校諸帳簿管理システムを開発し、小学校教務主任対象に講習会を実施  全小学校5年生にプログラミング教育に関する授業を実施  プログラミング教育に関する授業で、タブレットを活用した授業を公開  指導主事訪問や教育ウィーク等の学校公開期間において、タブレット等のICTを用いた授業公開を小・中学校で実施</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
プログラミング教育に関する授業の実施 ： 全小学校 小中学校でのタブレットを活用した授業の公開 ： 全小中学校 グループウェアを活用した事務効率化のための研修 ： 全小中学校対象に1回	プログラミング教育に関する授業の実施 ： 全小学校 小中学校でのタブレットを活用した授業の公開 ： 全小中学校 グループウェアを活用した事務効率化のための研修 ： 全小中学校対象に1回		
成 果 ・ 課 題	<p>来年度から実施の新学習指導要領に盛り込まれた小学校のプログラミング教育に向けて、小学校の教員に加え、アシスタントとして授業に入る福井大学の学生に対しても計画的に研修を実施しました。</p> <p>プログラミングの授業は、教育委員会の配布したカリキュラムをもとに、すべての小学5年生に授業を行いました。その中で、全小学校がタブレットを活用した授業を公開しました。また、すべての中学校において、学校公開期間にICTを活用した授業を公開しました。</p> <p>ICTを活用した業務改善に向けて、指導要録や通知表といった諸帳簿を効率よく作成するシステムを教員が開発し、その使い方の研修会を中学校は8月、小学校は2月に実施しました。</p> <p>本市が導入している教育ネットワークとグループウェアは、業務になくてはならないものになっています。今後、OJTをさらに進め、一層の効率化につなげていきます。</p>		

9	キャリア教育の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>児童生徒一人ひとりが夢や希望を持ち、将来社会人として自立することができるようキャリア教育を推進します。その中で、小学校の社会見学・職場見学や中学校の職場体験、福井市キャリア教育プログラムの実施など児童生徒のキャリア教育を支援するために、福井市キャリア教育連絡協議会を開催し、中学校で福井市キャリア教育プロジェクトを実践します。</p>		
<b>取 組 内 容</b>	<p>キャリア教育連絡協議会を3回開催（4/19、9/12、12/23） （第4回はコロナウイルス感染症対策のため中止） 福井市キャリア教育プログラムの実施 ・小中学校あわせて255学級で実施（実施申請は275学級であったが、3月の臨時休業のため20学級が実施できなかった。） 小学校においては社会見学・職場見学、中学校においては職場体験学習を実施 ・職場と学校のマッチングを行い、職場体験学習を支援 福井市キャリア教育連絡協議会の活動の周知 ・市PTA連合会総会に参加し、PTA会長に周知 福井市キャリア教育プロジェクトの実施 ・モデル校（至民中・安居中）で、提案型職場体験学習を実践 ・「夢への招待状」を活用した授業と研修会を実施 ・教務主任研修会において実践報告</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>福井市キャリア教育プログラムの実施学級数 ：延べ258学級 小学校の社会見学・職場見学の実施 ：全小学校 1校当たり4日 中学校 キャリア教育プロジェクトの研修会の実施 ：5回</p>	<p>福井市キャリア教育プログラムの実施学級数 ：延べ255学級 小学校の社会見学・職場見学の実施 ：全小学校 1校当たり4日 中学校 キャリア教育プロジェクトの研修会の実施 ：5回</p>		
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>福井市キャリア教育連絡協議会を開催し、市内経済団体やキャリア教育コーディネーターと連携してキャリア教育を推進することができました。今年度は、新たに女性活躍促進課が本協議会に参加し、連携を図る体制を構築しました。</p> <p>福井市キャリア教育プログラムは、市PTA連合会総会や教務主任研修会等で周知し、協力を依頼したことで、本プログラムの実施が各学校に浸透しています。</p> <p>ただし、福井市キャリア教育プログラムの実施学級は、新型コロナウイルス感染症対策による3月の臨時休業のため実施できなかった学級もあり、数値目標を達成できませんでした。しかし、プログラムの実施申請段階では数値目標を上回っていたことから、今後も取組を継続していきます。</p> <p>小学校の社会見学や職場見学は、1校当たり4日実施し、児童が将来の生活や社会、職業などを意識する機会となりました。</p> <p>中学校の職場体験学習は、全中学校の2年生が実施しました。今年度は、キャリア教育プロジェクトとしてモデル校（安居中・至民中）に提案型職場体験学習の実践を依頼し、市教委、キャリア教育コーディネーターが支援しながら職場体験学習を行いました。その成果や意義、課題等について、教務主任研修会で実践発表を行うことで来年度の取組へとつなげました。</p> <p>これまでの成果が認められ、今年度、福井市教育委員会は「第13回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」を受賞しました。</p> <p>来年度は、モデル校での実践を各校に広めるなど、取組を更に充実させていきます。</p>		

・学校における安全対策を充実し、食育と運動部活動、体力向上を推進して、子どもたちの心身の健全な発達に努めます

10	通学環境の整備及び安全対策の充実	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>全小中学校において、交通事故、犯罪、災害など様々な危険から身を守る対処の仕方について、安全教育や避難訓練等を通して、児童生徒自ら安全な行動ができる力の育成に努めます。また、沿岸部に位置する学校では津波対応避難訓練を実施します。</p>		
	<p>通学路安全対策として、福井市通学路安全推進会議において交通安全・防犯・防災の観点から通学路の安全対策を実施し、児童生徒が安心して登下校できるよう通学環境を整えます。あわせて、安全面及び防犯面の危険性が高い中学校の通学路に、学校の要望に応じて通学路照明灯を設置します。</p>		
取組内容	<p>避難訓練の実施 : 全小中学校 73 校 実施率 100% 津波対応避難訓練の実施 : 6 校 (大安寺小、大安寺中、国見小、国見中、長橋小、越廼中)</p>		
	<p>前年度調査した通学路のブロック塀改善確認調査 : 198 力所 うち 30 力所の改善を確認 通学路安全推進会議の開催 (交通安全・防犯・防災) : 6 月 20 日、7 月 17 日、1 月 21 日 通学路安全合同点検の実施 ・交通安全部会 : 8 月 7 日、8 日 20 力所 ・防犯部会 : 8 月 9 日 3 力所 ・防災部会 : 8 月 9 日 6 力所 通学路照明灯の設置要望 : 2 基 通学路照明灯の設置 : 2 基</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>目 標</b>	
<p>児童・生徒自らが考え行動できる避難訓練の実施 : 100% (全小中学校) 通学路安全推進会議の開催及び交通安全・防犯・防災の各合同点検の実施 : 会議 2 回 合同点検 (全小中学校) 通学路照明灯の設置基準を満たす要望に対する設置基数の割合 : 100%</p>		<p>児童・生徒自らが考え行動できる避難訓練の実施 : 100% (全小中学校) 通学路安全推進会議の開催及び交通安全・防犯・防災の各合同点検の実施 : 会議 3 回 合同点検 (全小中学校) 通学路照明灯の設置基準を満たす要望に対する設置基数の割合 : 100%</p>	
果 課 題	<p>学校における訓練については、全小中学校が実施し、沿岸部の学校では、津波被害を想定した訓練も行いました。また、夏季休業中の防災分野の研修会に 9 割を超える学校が参加し、意欲的に安全教育に取り組んでいます。学校における危機事象への対応は、地震や大雨などの自然災害だけでなく、不審者対応や弾道ミサイルのように、社会情勢に合わせた対応が求められています。今後は、各学校が作成している危機管理マニュアルの見直しを適宜進めていきます。</p>		
	<p>通学路関係では、平成 30 年度に行ったブロック塀調査のその後の改善状況を確認した結果、30 件の改善が見られ、所有者と面会し直接指導したことが功を奏したと考えられます。また、学校から寄せられた通学路危険箇所の改善要望について、交通安全、防犯、防災の観点から推進会議の開催と合同点検を実施し、各関係機関と連携しながら改善に取り組みました。改善内容としては、ガードレールの設置や歩行者用青信号時間の延長などとなっています。さらに、通学路照明灯の設置について、要望に対し全ての箇所で設置を行いました。学校からの改善要望の中には、早急な対策が困難な箇所もありましたが、児童生徒の安全確保のため、可能な対策 (通学路の変更等) を検討し、学校や各関係機関と連携した対応を継続的に行っていきます。</p>		

11	楽しくおいしい学校給食の実施	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>地場産食材の使用や和食の推進を図り、「ふくい」の食を取り入れながら、子どもたちに安全・安心でおいしい給食を提供します。</p> <p>新たに、令和2年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、世界各国の代表的な料理を給食献立に取り入れ、その国の食文化等を学ぶ機会とするとともに、栄養教諭・学校栄養職員と教職員が連携し、学校給食や様々な活動を通して食育指導を推進します。</p>		
	取 組 内 容	<p>福井市農産物使用品目数：25品目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用品目名：米、ほうれん草、小松菜、越前水菜、きゅうり、トマト、越のルビー、葱、かぶ、生姜、じゃが芋、えのきだけ、しめじ、金福すいか、銀福すいか、キャベツ、大根、さつま芋、春菊、大麦、カーボロネロ、きゃろふく、大豆、ブロッコリー、鹿肉</li> </ul> <p>朝倉ゆめまるランチ事業：2回（6月、11月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月献立：コンソメライス、福井ポークミルフィーユカツ（ルビーソース）、ボイルキャベツ、ジュリアンスープ、さつまいもタルト、牛乳</li> <li>・11月献立：ご飯、真鯛のフライ（セサミケチャップソース）、キャベツときのこの塩こうじ炒め、呉のみそ汁、お米のムースブルーベリーソース、牛乳</li> </ul> <p>学校給食における和食給食の実施割合：59.1%（市平均107.5日/181.8日）</p> <p>東京オリンピック・パラリンピック応援給食の実施：年5回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月：ブラジル、9月：スペイン、10月：スロベニア、12月：中国、1月：アメリカ</li> </ul> <p>○中核市誕生・市制130周年記念給食：年1回（4月）福井のチキンソースカツ丼、羽二重餅 他 福井の郷土食を楽しむ給食を実施し、給食に添える記念カードを併せて配付。</p> <p>○フェイスブックによる学校給食情報の発信：49回</p>	
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>福井市産農産物使用品目数</p> <p>：23品目（平成30年度）</p> <p>25品目以上（令和元年度）</p> <p>朝倉ゆめまるランチ事業：年2回</p> <p>学校給食における和食給食の実施割合</p> <p>：年間58.6%（平成30年度）</p> <p>年間59.0%以上（令和元年度）</p> <p>東京オリンピック・パラリンピック応援給食の実施</p> <p>：年6回（6カ国）</p>		<p>福井市産農産物使用品目数</p> <p>：25品目</p> <p>朝倉ゆめまるランチ事業：年2回</p> <p>学校給食における和食給食の実施割合</p> <p>：年間59.1%</p> <p>東京オリンピック・パラリンピック応援給食の実施</p> <p>：年5回（5カ国）</p>	
成 果 ・ 課 題	<p>納入業者や市園芸センターなど関係機関と調整をし、地場産食材を計画的に取り入れました。</p> <p>また、郷土料理等を取り入れた和食給食を実施するとともに、中核市誕生・市制130周年記念給食や朝倉ゆめまるランチ事業を行い、子ども達が喜ぶ楽しい給食づくりを行いました。</p> <p>2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、世界各国の代表的な料理を給食に取り入れ、給食時間の校内放送や栄養教諭等の食育指導等で各国の食文化や特産品、首都等を子ども達に伝えることで、行ってみたい気持ちやオリンピック開催への機運を高めました。3月に予定していた応援給食（イタリア）は、新型コロナウイルス対策による学校の臨時休業措置により実施できませんでしたが、来年度も継続して実施していきます。</p> <p>今後も計画的に、地産地消や食育の推進に努め、子ども達が喜ぶ、安全安心でおいしい給食を提供するとともに、給食に関する情報をフェイスブックでも発信し、学校及び家庭での食育に繋げていきます。</p>		

12	学校給食施設の充実	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>福井市学校給食施設整備基本構想に基づき、ドライシステムの導入や食物アレルギーの調理室の設置など、衛生管理や設備機能を充実する施設に整備するため、学校給食センター整備の基本計画を策定します。</p> <p>また、民間活力（PFI手法）の導入可能性調査を実施します。</p>		
取 組 内 容	<p>策定業者の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにより公募（4月25日）</li> <li>・第1回審査会（6月5日）</li> <li>・プレゼンテーション、第2回審査会（6月19日）</li> <li>・パシフィックコンサルタンツ株式会社 大阪本社と契約（7月8日）</li> </ul> <p>策定業者との打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回打ち合わせ（7月9日）：業務計画書について、業務に係る確認事項について</li> <li>・第2回打ち合わせ（8月16日）：整備方針のパターンについて、建設場所について</li> <li>・第3回打ち合わせ（9月27日）：整備方針のパターン・建設場所の方向性について</li> <li>・第4回打ち合わせ（11月5日）：基本計画（素案）の内容について</li> <li>・第5回打ち合わせ（12月12日）：基本計画（素案）の修正点について</li> <li>・第6回打ち合わせ（2月17日）：PFI可能性調査に関する市場調査結果報告等について</li> </ul> <p>○パブリック・コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井市新学校給食センター等整備基本計画（素案）について（2月17日～3月9日）</li> <li>意見：4人、11件</li> </ul> <p>○PFI検討委員会（3月26日）</p> <p>○福井市新学校給食センター等整備基本計画の策定（3月）</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
福井市学校給食センター整備基本計画の策定及び民間活力の導入可能性調査の実施：年度末		福井市学校給食センター整備基本計画の策定及び民間活力の導入可能性調査の実施：3月	
成 果 ・ 課 題	<p>プロポーザル方式で選定し、委託したコンサルタント業者と連携を密にし、「福井市新学校給食センター等整備基本計画」を策定しました。この中で、新センターの調理能力や建設計画地を確定し、概算事業費を算定しました。</p> <p>また、PFI可能性調査報告書に基づき、PFI検討委員会の中で、PFI（BTO）で整備運営することが決定しました。</p> <p>来年度は、実施方針・要求水準の作成や特定事業の選定などSPC（特別目的会社）の選定準備に取り組んでいきます。</p>		

13	体力向上の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>「体力・運動能力調査」の結果をもとに本市の実態や課題を分析し、各学校で計画書を作成したり、授業改善に生かしたりしながら、全国トップクラスの体力づくりに努めていきます。</p> <p>特に、小学校段階において運動習慣を養うことは、体力向上に重要であると考えます。そのため、始業前や業間、昼休みなどを利用し、体を動かすことの楽しさや上達する喜び、「やればできる」という自信を持たせることで、主体的に運動に親しむ児童を増やします。</p>		
取 組 内 容	<p>児童生徒体力づくり推進計画書の作成、及び計画書に基づく運動の取組 : 全小中学校</p> <p>体力・運動能力調査の実施(6~7月) : 全小中学校</p> <p>体力・運動能力調査の結果に基づき、各学校が実態把握と分析(10月) : 全小中学校</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>年間を通して、全学年が体育の授業以外で運動に取り組む小学校の割合</p> <p>: 66.0% (平成30年度)</p> <p>68.0%以上 (令和元年度)</p>		<p>年間を通して、全学年が体育の授業以外で運動に取り組む小学校の割合</p> <p>: 62.0%</p>	
成 果 ・ 課 題	<p>全小中学校が児童生徒体力づくり推進計画書を作成し、体育授業のみならず教育活動全般を通して、運動に取り組みました。</p> <p>令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、本県の児童生徒は、小学校男女及び中学校女子において1位、中学校男子が2位という好成績となりました。</p> <p>この調査結果をもとに、本市の実態や傾向、課題などを明らかにし、その内容を各学校に周知するとともに、各学校の記録とも照らし合わせながら、強化が必要な種目について、対策を講じるよう指導しました。特に、「めあてや目標の提示」「ふりかえり時間の確保」の2点を重点的に授業に取り入れるよう指導しました。</p> <p>一方、体育授業以外の時間に年間を通じて運動に取り組む学校数は、残念ながら減少する結果となりました。この原因としては、来年度からの新学習指導要領の全面実施に向けた活動時間確保のために、年間を通じた体育活動から期間を限定した活動に変更したり、読書タイムやドリル学習、体育活動などの中から活動を精選するなど、活動時間の調整を行った学校があったためです。</p> <p>このような実態ではありますが、運動習慣は、生涯にわたって健康な生活を営む基盤となるものであり、適切な発育・発達には休養や栄養と同様、不可欠であると言われています。今後は体育活動の時間をゼロとするのではなく、隙間時間を確保することや期間を限定することなど、可能な範囲で児童が体を動かせるような機会を設定してもらえよう依頼し、学校と連携しながら進めていきます。</p>		

14	中学校運動部活動の充実	達成度	
<b>実行内容</b>			
目 標	<p>高度な指導力を持つ地域の指導者を外部の専門指導者として活用するとともに、企業と連携しながら一流指導者（トップアスリート）による実技講習会を通して、中学校運動部活動及び体育授業の充実を図ります。</p> <p>学校においては、「福井市中学校における部活動の方針」に基づき、決められた活動時間内で合理的でかつ効率的・効果的な指導に向けて練習方法や内容を見直します。また、校内研修等を実施し、指導力を高めるよう努めます。</p>		
取組内容	<p>外部専門指導者の委嘱者数 : 44人(18校)  部活動に係る活動方針の策定と保護者への公開 : 全中学校  運動部活動指導の校内研修等の実施 : 全中学校</p> <p>トップアスリートによる講習会の開催 : 1回  〔種目〕女子バドミントン(1月25日 社中学校)  指導者: 藤本 ホセマリ(全日本社会人シングルスチャンピオン)  福井 剛士(全日本社会人ダブルスチャンピオン)  参加者: 83人</p> <p>〔種目〕陸上競技 中長距離(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、直前に中止)  指導者: トヨタ自動車陸上長距離部OB(2月29日 福井県営陸上競技場)  菅谷 宗弘(ニューイヤー駅伝優勝メンバー)  尾田 賢典(世界陸上テグ大会 日本代表)</p> <p>トップアスリートによる体育授業の開催 : 5校  (県の事業と連携)  ・講師: ユテック陸上競技部、北電ハンドボール部</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>トップアスリートや一流指導者による  実技指導の回数 : 2回  部活動に係る活動方針の策定  : 全中学校</p>		<p>トップアスリートや一流指導者による  実技指導の回数 : 1回  部活動に係る活動方針の策定  : 全中学校</p>	
成 果 ・ 課 題	<p>外部指導者を活用したことで、生徒の意欲の向上につながり、大会での入賞も多くみられました。また、中学生に対する指導者としての資質を学ぶために、県主催の「運動部活動指導者研修会」への参加も促しました。</p> <p>今年度は顧問教員の尽力のもと、女子バドミントン教室を実施することができました。加えて、オリンピック・パラリンピック経済界協議会のアスリート派遣事業を活用した陸上教室も予定していましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、やむをえず中止しました。令和2年度についても、生徒の健康と安全を第一に状況を見て実施するよう努めていきます。</p> <p>また、県のトップアスリート派遣事業と連携し、中学校5校において選手による体育授業を実施しました。体を動かすことの楽しさを体感させることはもちろんですが、技術面、マナー面、心構え等についても指導をいただきました。</p> <p>運動部活動においては、全ての学校において「部活動に係る活動方針」を策定しました。練習時間や休養日に関する内容を明確にし、保護者に公開した上で進めることで、学校が考える部活動の意義や目的を保護者と共有化が図ることができ、年間を通しての計画的な部活動運営につながりました。また、このことが、教員の多忙化解消や生徒の身体的・精神的負担の軽減にも影響を与えたと聞いています。今後も、生徒の競技に対する関心や意欲の向上、技術の習得に努めていきます。</p>		

・家庭や地域、関係機関・団体と連携し、青少年の健全育成を進めます

15	放課後児童クラブの整備	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>共働き家庭や核家族が増加している中、放課後留守家庭児童を健全に育成し、保護者が安心して仕事に専念できる環境を整えます。</p> <p>また、放課後児童クラブの利用希望者が増加していることから、子ども・子育て支援事業計画に基づき、小学校余裕教室や市有施設等の改修を行い、児童クラブの整備・運営を進めます。</p> <p>さらに、児童クラブ職員の人材不足や課題解消に向けた対策に取り組みます。</p>		
取 組 内 容	<p>平成 31 年 4 月現在、児童クラブ 82 カ所          ・放課後児童会 29 カ所、児童クラブ 53 カ所          *平成 31 年 4 月から 4 カ所新規開設（森田、日之出、木田、麻生津）          円山小学校内の児童クラブに備品等を整備して定員を拡充（30 人増）          ○河合小学校内の児童クラブを整備拡張し、翌年度からの定員を拡充（15 人増）          児童クラブ職員の人材不足や負担増などの課題解消に向け、市が委嘱した学童支援コーディネーターの派遣による各クラブ運営等の支援を実施          ○児童クラブ職員の資質向上を目的としたリーダー養成研修会の実施          福井大学と連携し、希望する学生を放課後児童会で受け入れ、体験学習活動を実施          新 1 年生及び継続利用を希望する児童数の予測を基に、新たに整備が必要な地区を検証          令和 2 年度入会に向け、児童クラブ等に対する申し込み状況の確認及び調整</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
放課後留守家庭児童の受入率 : 100%		放課後留守家庭児童の受入率 : 100%	
成 果 ・ 課 題	<p>今年度も、要件を満たす放課後留守家庭の児童のうち、児童クラブの利用を希望する児童をすべて受け入れました。</p> <p>また、小学校内の児童クラブ 2 カ所（円山、河合）のクラブ室や備品を整備し、定員の拡充を行いました。</p> <p>今後も、児童クラブの利用希望者は増加し、現行の定員のままでは受入が困難となる地区もあることが予想されるため、学校の余裕教室等を利用して児童クラブの整備を進めます。</p> <p>併せて、市有施設の老朽化対策と効率的な運営を行うため、施設マネジメントの視点からの施設整備も必要ことから、各地区の状況を踏まえた整備方針の検討を進めます。</p> <p>さらに、民間事業者による児童クラブの新規設置等に対する助成制度の創設を検討します。</p> <p>また、児童クラブ職員の人材確保が課題となっている中、発達障がいやその傾向がある児童の対応で職員の負担が増加している現状があるため、専門知識をもつ学童支援アドバイザーを各クラブに派遣し、アドバイスや相談にのるなどの支援を行いました。</p> <p>そのほか、従来の研修内容を見直し、職員の資質向上を図るためのリーダー養成研修の実施や大学との連携事業を実施するなど、課題の解消に向けて取り組みました。</p> <p>来年度においても、課題解消に向けた事業を継続して進めます。</p>		

16	家庭や地域の教育力の向上	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	P T A と連携し、地域教育力活性化事業や学社連携事業など、青少年の健全育成に向けた地域の教育力を高めるための取組を支援します。		
	また、親子の成長や学びを支えるため、親などを対象とした「家庭教育事業」をすべての公民館で実施します。		
<b>取 組 内 容</b>	<b>地域教育力活性化事業</b> 市内小中学校を5つのブロックに分け、各ブロックで実施 ・ A ブロック スポーツ交流会(9月)、ハーバリウム作り(11月) ・ B ブロック 情報交換会(7月)、親善スポーツ大会(11月) ・ C ブロック 小中合同のふれあいコンサート開催(12月) ・ D ブロック バブルサッカー大会(9月) ・ E ブロック 講演会、母親懇談会(9月)、ソフトバレーボール大会(11月)		
	<b>学社連携事業</b> 全23中学校で実施 ・ あいさつ運動、教育講演会、親子キャンプ、環境整備、職場体験、親子奉仕作業、町内清掃活動、芸術鑑賞会など  <b>公民館教育事業「家庭教育事業」</b> 中央公民館及び地区公民館(一光公民館を除く)の全公民館で実施 ・ 中央公民館：いきいき子育てサロン ・ 地区公民館：子育て講演会・相談会、親子ふれあい講座、人形劇鑑賞など		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
地域教育力活性化事業の実施	： 全5ブロック	地域教育力活性化事業の実施	： 全5ブロック
学社連携事業の実施	： 全中学校	学社連携事業の実施	： 全中学校
家庭教育事業の実施	： 全公民館	家庭教育事業の実施	： 全公民館
<b>成 果 課 題</b>	地域教育力活性化事業は、P T A の全5ブロックでそれぞれ実施され、保護者や地域の方が教育について考えたり、コミュニケーションを取る良い機会となりました。		
	学社連携事業は、目標通り全23中学校で実施しました。今後も学校教育と社会教育がそれぞれの役割を分担し、事業に取組むことで、相互理解に努めます。 公民館教育事業「家庭教育事業」は、一光公民館を除く全ての公民館で実施しました。今後も地域の実情にあわせて、地域の保育園、幼稚園、認定こども園、学校、児童館などの公的機関とのネットワークを活かし、地域全体で親子の成長や学びを支える学習機会の提供に努めます。		

17	地域の青少年健全育成の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>青少年育成福井市民会議の各支部で実施している子どもたちの見守り及び環境浄化活動などを支援するとともに、家庭や地域、関係機関・団体と連携し、速やかに不審者情報を発信します。</p> <p>また、ヤングテレホンに加えメールによる相談も受け付けるなど、相談しやすい環境を整え、青少年の健全育成を推進します。</p>		
<b>取 組 内 容</b>	<p>見守り活動の実施[青少年育成福井市民会議]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生の登下校時見守り活動を支援</li> <li>・「夕方見守り活動」のスポットCMによる周知 「子ども・若者育成支援強調月間」に合わせて実施 11月1日～11日(土・日・祝日除く) 7:00～8:30の間 計7回</li> </ul> <p>環境浄化活動(危険箇所点検)の実施[青少年育成福井市民会議](34支部318箇所)(見込み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園や河川敷などの危険箇所点検活動を支援</li> </ul> <p>不審者情報に関する警察との連携協定に基づく会議の開催(8月8日)</p> <p>メール相談運用事例研究会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目 6月20日:食事目的で居酒屋に出入りする高校生への対応</li> <li>・第2回目 9月26日:不登校児の保護者からの相談</li> <li>・第3回目 11月15日:情緒の不安定を訴える生徒からの相談</li> <li>・第4回目 1月8日:自殺をほのめかす青少年からの相談</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>見守り活動の実施 : 48支部</p> <p>不審者情報に関する警察との連携協定に基づく会議開催 : 1回</p> <p>メール相談運用事例研究会開催 : 4回</p>	<p>見守り活動の実施 : 48支部</p> <p>不審者情報に関する警察との連携協定に基づく会議開催 : 1回</p> <p>メール相談運用事例研究会開催 : 4回</p>		
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>見守り活動については、青少年育成福井市民会議の48支部で実施しました。地域の大人の目を増やすため、子どもへの声かけ事案が発生しやすい夕方に住民が声を掛け合って屋外で作業する「夕方見守り運動」を推進し、見守り活動の強化を図りました。</p> <p>市教育委員会と福井警察署及び福井南警察署で交わした不審者情報に関する連携協定に基づく会議を開催しました。警察から学校への聞き取りがよりスムーズにできるよう、各学校で作成する「不審者情報聞き取りメモ」の様式を見直しました。</p> <p>近年、コミュニケーション手段が多様化してきたことから、今年度より、「メール相談」も開始しました。文字だけの情報で、いかに真意を読み取るか、相談者の気持ちにより添った返答をするためには、どのような言葉選びをしたらよいか研究しました。相談者の思いをくみ取れない場合の対応など課題も見えてきたことから、来年度も継続して事例研究を実施していきます。</p>		

18	家族ふれあいの推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>家庭の教育力向上のため、家族のふれあいやコミュニケーションの大切さを呼びかけ、明るく温かい家庭づくりを推進します。また、インターネット適正利用にかかる啓発活動を推進し、生活習慣の乱れや犯罪被害の防止に努めます。</p>		
	<p>さらに、青少年の非行を未然に防ぐため「愛のひと声」など、きめ細かな補導活動を行うとともに、青少年の健全育成、非行防止等についての啓発を強化し、市民の関心と意識の向上を図ります。</p>		
取 組 内 容	<p>情報モラル講習会の開催          ・講師派遣：小学校 31 校 中学校 16 校 合計 47 校（うち児童生徒を含む保護者対象：30 校）          附属義務教育学校前期課程 2 回 附属義務教育学校後期課程 2 回          チャレンジ教室 1 回 青少年育成福井市民会議社西支部 1 回          附属特別支援中高等部 1 回 青少年育成福井市民会議足羽支部 1 回          福井市主任児童委員研修会 1 回 社西地区青少年育成会 1 回          中央公民館 1 回 宝永公民館 1 回</p>		
	<p>・自校開催：小学校：50 校 中学校：23 校          「家族ふれあい」絵手紙コンクールの実施《中核市移行・市制施行 130 周年記念事業》          ・募集期間：6 月下旬～9 月 6 日 ・応募数：6,753 点          ・表彰式（入賞作品 80 点を選出）：11 月 3 日（ハピリン）          ・優秀作品展示：11 月 2 日～4 日（ハピリン）、11 月 6 日～10 日（福井中央郵便局）          11 月 12 日～18 日（ベル）、12 月 1 日（エルパ）          小中学校生徒指導主事会合同研修会の開催          ・「フィルタリング」について：12 月 10 日（きらら館）          非行防止啓発活動の実施          ・一斉街頭キャンペーン：7 月 13 日（JR 福井駅周辺）          ・街頭補導活動：7 月 19 日（JR 福井駅周辺）          ・非行防止展：12 月 1 日（エルパ）</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>小中学生等の情報モラル講習会の開催          ： 全小中学校          「家族ふれあい」絵手紙コンクール優秀作品展示          ： 3 回（平成 30 年度） 4 回（令和元年度）          小中学校生徒指導主事会合同研修会開催：1 回</p>		<p>小中学生等の情報モラル講習会の開催          ： 全小中学校          「家族ふれあい」絵手紙コンクール優秀作品展示          ： 4 回          小中学校生徒指導主事会合同研修会開催：1 回</p>	
成 果 ・ 課 題	<p>市内小中学校の全児童生徒を対象に行った「インターネット利用等に関する調査(令和元年 7 月)」によると、インターネットにつながる機器の利用率は高く、小学校 3・4 年生の機器利用率は 80%以上、5 年生以上では 90%以上になっています。また利用時間も年々延びています。</p>		
	<p>ネット被害やいじめ、ネット依存等の危険性が危惧されていることから、学校等に対し、「情報モラル講習会」の開催を呼びかけました。この結果、全小中学校で情報モラル講習会を開催することができました。インターネット利用に関する指導は、家庭が果たす役割も大きいことから、来年度は、より多くの保護者を対象とした講習会を開催し、インターネット適正利用にかかる啓発活動を一層推進します。</p> <p>教職員に対しては、小中学校合同による生徒指導主事会において、専門的な知識をもつ講師（e - ネットキャラバン）を招き、フィルタリングに関する研修会を開催しました。参加した先生方からは、インターネットの安全な利用に役立つ内容であったとの評価を得られました。</p> <p>また、絵手紙コンクールの優秀作品展示を 4 会場で実施し、家族ふれあいの推進に努めました。</p>		

19	自然を活かした体験学習の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>子どもたちが、自立性や豊かな感性を育むよう、自然を活かした体験学習の場を提供します。安全で快適に利用できる施設運営に努めるとともに、利用希望の多い連休期間などは、できる限り開所し利用者の利便性の向上に努めます。また、施設利用の促進を図るため、訪問PR活動を継続して行います。</p>		
<b>取 組 内 容</b>	<p>○施設利用者数  ・宿泊学習等（小中学校）の利用：38校 4,183人  ・その他の利用：113団体 7,633人  県外からの利用団体：32団体（前年度比 6団体増）</p> <p>○休所日の特別開所 13日（4/29、4/30、5/3、5/4、5/5、7/21、8/11、8/12、8/18、9/15、10/20、11/3、11/23）</p> <p>○主催事業  ・10回開催  （新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、2月29日から3月31日まで休所し、3月14「シイタケ菌打ち体験&amp;きのこシチュー作り」は中止した。）</p> <p>○事業参加募集チラシの配布  ・市政広報での募集のほか、小学校や児童関連施設にチラシを配布</p> <p>○近隣地域と連携した事業  ・「朝倉トレイルラン2019」への事業連携・協力</p> <p>○施設利用促進を図るための訪問PR活動  ・スポーツ少年団60、ヨサコイチーム24、大学5、企業・団体7、その他4</p> <p>○施設の整備・保全  ・天井内保温工事（正面玄関、2階和室）、受水槽修繕、浄化槽機器修繕  ・揚水ポンプ修繕、宿泊室畳表替え など</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
少年自然の家年間施設利用者数 ： 11,400人 新たな利用者の獲得に向けたPR訪問団体数 ： 92団体（平成30年度） 100団体（令和元年度）	少年自然の家年間施設利用者数 ： 11,816人 新たな利用者の獲得に向けたPR訪問団体数 ： 100団体		
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>利用希望者が多い連休期間の開所日を増やした結果、年間利用者数が目標値を上回りました。また、市内スポーツ少年団等からの紹介に加え、大学等にダイレクトメールを送付した結果、県外からの利用団体も増加しました。</p> <p>今後も、ホームページの活用や利用案内のパンフレットの送付など、県外の方へのPRを進めるとともに、利用者ニーズに応じた研修活動となるよう、活動プログラムの追加や見直しを行います。</p>		

・安全で快適な学習環境を整えるために、施設の整備・改修を進めます

20	学校体育館の防災機能強化	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	拠点避難所である小学校体育館の安全性を確保するため、窓ガラスに飛散防止フィルムを貼り落下防止対策を講じます。		
取 組 内 容	窓ガラス飛散防止対策工事 9校 ... 10月工事完了 (湊小、松本小、社北小、麻生津小、本郷小、六条小、下宇坂小、羽生小、清水東小)		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
窓ガラス飛散防止対策事業 飛散防止対策工事 ： 7校（平成30年度） 9校（令和元年度） 飛散防止対策実施率 ： 56.9%（平成30年度） 74.5%（令和元年度）		窓ガラス飛散防止対策事業 飛散防止対策工事 ： 小学校9校  飛散防止対策実施率 ： 74.5%（38校/51校）	
成 果 ・ 課 題	窓ガラス飛散防止対策事業については、目標通り小学校9校で工事が完了しました。来年度以降も、拠点避難所である小学校体育館の安全性を確保するため、引き続き、防災機能強化に取り組めます。		

21	学校生活環境の整備	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>子どもたちが安心して学び、快適に生活できる環境を提供するため、校庭の整備及び生活様式に応じたトイレの洋式化改修を行います。</p> <p>また、順化小学校、社北小学校では施設の老朽化に対応するため大規模改修を進め、さらに、順化小学校については順化公民館との複合化を行います。</p>		
	<p>○校庭整備工事（水はけ改善等）：足羽中学校 令和2年4月下旬工事完了（見込み）</p> <p>学校生活環境整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ洋式化改修工事：小学校3校 8月工事完了 （社北小、六条小、清明小）</li> <li>中学校2校 8月工事完了 （進明中、灯明寺中）</li> <li>幼稚園1園 10月工事完了 （大安寺幼稚園）</li> </ul> <p>小学校大規模改修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順化小学校 長寿命化改修工事（第2期） 2月工事完了</li> <li>・社北小学校 仮設校舎建設 3月工事完了</li> <li>南校舎長寿命化改修工事 3月工事着工</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>	<b>結 果 ・ 成 果</b>		
成 果 ・ 課 題	<p>トイレ洋式化改修工事については、当初予定していた5校に加え、大安寺幼稚園において修繕工事に併せて洋式化改修を実施し、目標を1.4ポイント上回りました。来年度以降も、国の補助制度を活用しながら早期の目標達成に向けて改修を進めます。</p> <p>小学校大規模改修事業については、順化小学校・順化公民館複合化及び大規模改修工事が2月に完成しました。また、社北小学校の大規模改修については、3月に仮設校舎の建設が完了するとともに、南校舎の大規模改修工事に着手しました。</p> <p>足羽中学校の校庭整備工事（水はけ改善等）については、秋に全国各地に大きな被害をもたらした台風に伴う災害復旧工事の影響により、コンクリート製品や金属製二次製品が不足、入手が困難になり、納期が遅れたため、年度内には完成しなかったものの、工期を延長し令和2年4月下旬の完成予定です。</p>		

・市民一人ひとりの自主的な学習の活動を支援し、市民憲章運動を進めます

22	公民館施設の整備	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	公民館の新築及び改修は、施設の老朽化、地区の人口水準でみた施設の狭あい度、耐震性、災害警戒区域に照らした立地環境などを総合的に勘案し、本市が推進する施設マネジメント計画及び財政再建計画の取組方針も踏まえながら、近隣公共施設との複合化等も含め計画的に整備を進めます。		
取 組 内 容	<p>順化小学校・順化公民館複合化及び長寿命化改修工事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月5日 1期工事（南校舎）工事完了</li> <li>・ 2月14日 2期工事（北校舎）工事完了</li> </ul> <p>一乗公民館移転用工事設計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月25日 第10回建設委員会</li> <li>・ 10月31日 第11回建設委員会</li> <li>・ 3月25日 設計完了</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>公民館整備</p> <p>： 1館 順化公民館（移転複合化）</p> <p>公民館整備準備</p> <p>： 1館 一乗公民館（移転用工事設計）</p> <p>公民館の耐震化率</p> <p>： 91.0%（平成30年度）</p> <p>92.7%（令和元年度）</p>		<p>公民館整備</p> <p>： 1館 順化公民館（移転複合化）</p> <p>公民館整備準備</p> <p>： 1館 一乗公民館（移転用工事設計）</p> <p>公民館の耐震化率</p> <p>： 91.0%（平成30年度）</p> <p>92.7%（令和元年度）</p>	
成 果 課 題	<p>順化公民館の複合化については、計画通り整備を進め、1期工事が7月5日、2期工事が2月14日に完了しました。</p> <p>また、一乗公民館の移転用については、4月25日、10月31日に一乗地区建設委員会と協議を行いながら進め、3月25日に実施設計が完了しました。今後は、一乗地区建設委員会へ報告を行い、令和2年度内の工事完成を目指します。</p> <p>順化公民館が完成したことから耐震化率が上がりました。耐震性が低い、湊、東郷、殿下、一光については引き続き計画的に整備を進めていきます。</p>		

23	公民館事業の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>地域の特色を活かした活動に取り組む地区公民館において、多様な学習ニーズや地域課題の解決を重視した各種教育事業を実施するとともに、自主グループの活動を支援します。</p> <p>また、地域のコーディネーターとして、人と人、人と地域を結ぶ公民館活動の支援に努めます。</p> <p>さらに、中央公民館が発行する冊子「福井市の公民館」やホームページ、SNS等の広報媒体を積極的に活用して、公民館活動の情報提供に努めます。</p>		
<b>取 組 内 容</b>	<p>公民館教育事業の実施（通年）</p> <p>市民の多様な学習ニーズや、地域課題に応えるため、公民館教育事業（各種学級・講座）を実施した。全ての公民館で最低5つの教育事業（家庭教育事業、少年教育事業、青年教育事業、福井学事業、地域課題解決事業）に取り組んだ。</p> <p>〔地域の特色を活かした教育事業の例〕</p> <p>伝統野菜の栽培（木田公民館）宝永れきしカルタウォーク（宝永公民館）</p> <p>災害キャンプ（社南公民館）岡保を知ろう会（岡保公民館）防災「め」組（河合公民館）</p> <p>安居の里を守る会（安居公民館）かえるの楽校（酒生公民館）ふくい若者塾（中央公民館）</p> <p>公民館自主グループ</p> <p>中央公民館及び地区公民館において、文化芸術、趣味教養からスポーツまで、幅広いジャンルの自主グループ活動を支援した。</p> <p>「福井市の公民館」発刊</p> <p>福井市の公民館の取組を周知することを目的に年3回発刊した。（6月、10月、3月）</p> <p>その他、地域活動の拠点施設として、地区事業や公民館まつり等、幅広い活動を展開した。</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>公民館教育事業の実施（5事業）</p> <p>： 全公民館（一光公民館を除く）</p> <p>「福井市の公民館」の発刊</p> <p>： 3回/年</p>		<p>公民館教育事業の実施（5事業）</p> <p>： 全公民館（一光公民館を除く）</p> <p>「福井市の公民館」の発刊</p> <p>： 3回/年</p>	
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>公民館教育事業については、必須事業5事業を中心に、市民の多様な学習ニーズや地域の実状に応じて、様々な年齢層を対象に、幅広いテーマで実施しました。また、市民の自主的な学習活動の促進のため、全ての公民館において、900近い自主グループの活動を支援しました。</p> <p>「福井市の公民館」の発刊については、予定通り発刊し、全49公民館の紹介を完了しました。内容はホームページにも分かりやすく掲載し、本市の公民館の取組を発信していきます。また、公民館の最新情報についても、SNS等を活用し積極的に発信していきます。</p> <p>今後も、地域の実状に応じた学習機会の提供と、学習内容の充実に努めるとともに、公民館職員が、地域のコーディネーターとしての役割を担えるよう、公民館を拠点とした市民活動を支援していきます。</p>		

24	市民憲章運動の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	市民憲章への理解を深めるため、新しい実践目標の周知を図ります。また、市民憲章唱和や福井市を美しくする運動（市民一斉清掃）の実施などを通して、市民憲章運動のさらなる浸透を図ります。		
	<b>取 組 内 容</b>	<p>新しい実践目標の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パネル展の実施 市民憲章の成り立ちや、制定から現在に至るまでの年表とともに、新しい実践目標をPRするパネル展を市内5箇所を実施。</li> <li>6月25日～7月5日 市役所1階市民ホール</li> <li>7月10日～16日 アオッサ5階ギャラリー</li> <li>11月7日～19日 西武福井店8階レストラン街通路</li> <li>11月21日～24日 ショッピングシティベル2階くらしの地域情報センター</li> <li>12月10日～22日 ハピリン4階総合ボランティアセンター</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卓上のぼりの配布 6月28日の市民憲章制定記念日に合わせて、新実践目標を記載した卓上のぼり旗を市内全ての公民館（50館）に3本ずつ配布し、窓口等に設置。</li> <li>・新実践目標入りオリジナルノートの配付 新実践目標に応募のあった小中学校の他、市内全公民館や街頭において、計3,000部を配付。</li> <li>・ホームページ、SNS等で情報発信 新実践目標の優秀作品表彰や花壇コンクール、クリーンアップ作戦等について発信。</li> </ul> <p>福井市を美しくする運動（市民一斉清掃）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏（7月14日（日）～21日（日））</li> <li>・秋冬（11月10日（日）～17日（日）） ・春（3月8日（日）～15日（日））</li> </ul>	
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>新しい実践目標の周知 （パネル展を実施） : 市内5箇所 （卓上のぼりの配布） : 50館（公民館）</p> <p>福井市を美しくする運動参加者数 : 61,016人（平成30年度） 61,500人（令和元年度）</p>		<p>新しい実践目標の周知 （パネル展を実施） : 市内5箇所 （卓上のぼりの配布） : 50館</p> <p>福井市を美しくする運動参加者数 : 38,452人</p>	
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>新しい実践目標を周知するための取組として、ショッピングセンターなど市内5箇所パネル展を実施した他、市内の全ての公民館（50館）に卓上のぼり旗を配布し、窓口等へ設置を行いました。</p> <p>また、新実践目標を記載したオリジナルノートを作成し、新実践目標に応募のあった小中学校や、市内全公民館、街頭において、計3,000部を配付しました。</p> <p>さらに、ホームページやSNS等で市民憲章運動について積極的に情報を発信しました。今後も実践目標の普及啓発を図り、市民一人ひとりが市民憲章運動に取り組みめるように努めます。</p> <p>福井市を美しくする運動は、新型コロナウイルスの影響で春（3月8日（日）～15日（日））の運動が各地域で中止や活動範囲の縮小などにより、参加者数の目標を達成することができませんでした。</p>		

25	福井学の推進	達成度	
<b>実行内容</b>			
<b>目標</b>	市民一人ひとりが福井らしさを再発見し、郷土福井に誇りと愛着を持つために、中央公民館では「『福井学』学習センター事業」を継続し、地区公民館では「地域『福井学』事業」に取り組みます。こうした学習を通じて、本市の誇りである地域資源を発信できる人材育成に努めます。		
	<b>取組内容</b>	<p>「福井学」学習センター事業（中央公民館）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井学基礎講座9回を開催</li> </ul> <p>〔テーマ〕</p> <p>「小原ECOプロジェクト～小原には白山麓の歴史・文化生活が残っている～」、「福井に愛着をもたらす子どもへの教育」、「県民衛生プロジェクト～製造業の発展と衛生データの利活用について」、「東郷槇山城と長谷川秀一～信長に愛された家臣がつくった城と城下町」、「実践発表（ふくい祇園まつりを復活・松本地区の地域活性化の秘訣）」等</p> <p>地域「福井学」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全地区公民館で、郷土の歴史や偉人、自然等の郷土学習を実施</li> </ul> <p>〔内容〕 地区から輩出された偉人を学ぶ、子ども劇、伝統野菜の栽培、歴史探訪ウォーキング、ふるさとの宝探し、郷土料理教室 等</p> <p>○学習成果展示会を開催</p> <p>〔内容〕 公民館の平成30年度の取組をパネル展示</p> <p>〔日時・場所〕 6月25日～7月5日 市役所1階市民ホール 7月10日～7月16日 アオッサ5階ギャラリー</p>	
<b>数値指標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>「福井学」学習センター事業</p> <p>開催数 : 9回</p> <p>参加数 : 503人（平成30年度） 510人（令和元年度）</p> <p>地域「福井学」事業</p> <p>実施公民館数 : 全公民館</p> <p>参加者数 : 10,035人（平成30年度） 10,050人（令和元年度）</p>		<p>「福井学」学習センター事業</p> <p>開催数 : 9回</p> <p>参加者数 : 512人</p> <p>地域「福井学」事業</p> <p>実施公民館数 : 全公民館</p> <p>参加者数 : 10,093人</p>	
<b>成果課題</b>	<p>中央公民館の「福井学」学習センター事業では、福井の偉人等の歴史講座や現在の中心市街地のまちづくり、産業技術、生活文化など、幅広いテーマによる講座を開催し、目標の参加者数を達成できました。</p> <p>また、地区公民館の「福井学」事業では、より地域に密着した歴史や文化をテーマとし、それぞれの地域の特色を活かした教育事業を実施し、目標の参加者数を達成できました。</p> <p>さらに、「福井学」の一層の定着のため、各地区の公民館まつり等において、学習内容や取組内容を展示するなどの成果発表をしました。また、学習成果展示会を、市民ホールとアオッサ5階で開催し、全市民に向けた情報発信を行いました。</p> <p>今後も、「福井学」事業をとおして地域資源を見つめなおす機会を創出するとともに、ふくいや地域の魅力を発信できる人材育成に取り組んでいきます。</p>		

26	世代間交流事業の推進	達成度	
<b>実行内容</b>			
目 標	<p>地域において守り伝えられてきた特色ある伝統行事や生活文化等を次世代に継承するため、伝統文化継承事業を実施します。</p> <p>また、知識や技能を有する高齢者等を社会教育の現場に派遣する人材活用派遣事業を実施し、豊かな人生経験を地域社会に還元します。</p> <p>ふくい嶺北連携中枢都市圏内市町での広域的な講師の派遣について、関係市町と調整を行います。</p>		
取 組 内 容	<p>伝統文化継承事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各公民館において19事業を実施 (手作り味噌作り、地区の語り部創生講座、睦月神事の講座・鑑賞 など)</li> </ul> <p>人材活用派遣事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師として60人を登録 (分野は郷土料理、昔の遊び、戦争体験談、健康管理、食育、書道、洋裁、俳句、詩吟、民謡、音楽、地域の歴史 など)</li> <li>5月21日：登録者を対象に研修会を実施</li> <li>10月3日：高齢者ボランティアの説明会で事業を説明し、登録者を募った</li> <li>10月25日：公民館長会議で事業を説明し、候補者の推薦や館長自身の登録を依頼した</li> <li>・ふくい嶺北連携中枢都市圏での広域的な講師の派遣について、関係市町との調整</li> <li>4月26日：今後の方向性の検討のため個別協議(越前市・南越前町・鯖江市)</li> <li>5月13日：今後の方向性の検討のため個別協議(勝山市・大野市)</li> <li>7月18日：全体会議を開催し、関係市町と事業の本格実施に向けて検討を行った</li> <li>12~1月：来年度の協力事項と検討事項について連携市町と個別に協議を行った</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>伝統文化継承事業 事業数</p> <p>： 18事業(平成30年度)</p> <p>19事業(令和元年度)</p> <p>人材活用派遣事業 講師登録数</p> <p>： 50人</p>		<p>伝統文化継承事業 事業数</p> <p>： 19事業</p> <p>人材活用派遣事業 講師登録数</p> <p>： 61人</p>	
成 果 ・ 課 題	<p>伝統文化継承事業は、目標通り19事業を実施できました。</p> <p>「不死鳥友の会」など登録者のネットワークによる勧誘を進めるなど、様々な機会を捉えて事業の紹介を行い、登録を呼びかけた結果、目標を達成できました。しかしながら、登録者の高齢化に伴って減少する傾向にあるため、来年度も同様に様々な機会を捉えて登録を呼びかけ、登録者数の確保と指導内容の多様化に努めます。</p> <p>連携中枢都市圏での人材派遣事業は、来年度は本市の事業を連携市町で活用するところから始め、各市町の既存事業を最大限活かした事業の実施の方策を関係市町と調整します。</p>		

27	青年の地域活動の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	各公民館の青年教育事業を通し、青年の地域活動への参加意欲を高めるとともに、ジュニアリーダーなど地域活動の新たな担い手の育成に努め、青年グループの結成および地域コミュニティの活性化に繋がります。		
	また、福井市連合青年団の組織体制の充実を図り、青年や青年グループ等を対象として青年交流事業の開催を支援します。		
取 組 内 容	<p>各公民館における青年教育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区公民館（一光公民館を除く）及び中央公民館において、青年教育事業を実施</li> <li>・ 地区青年の夏祭り等への模擬店出店・出演（よさこいなど）及び本番に向けた打合せ</li> <li>・ 青年グループによる地区の子ども対象イベント（プール・水遊び）の開催</li> <li>・ 青年グループによるイベント（防災キャンプ）の開催</li> <li>・ 公民館まつり等への模擬店出店</li> <li>・ イルミネーション事業の実施</li> <li>・ 地区はたちのつどい及び実行委員会を開催</li> </ul>		
	<p>福井市連合青年団への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青年交流事業の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>7～8月 : 青年の集い「おとなのチャレンジ教室（仮）」打合せ会議の開催</li> <li>8月 : 朝倉万灯夜で模擬店出店、交流・PR活動（福井県連合青年団と合同出店）</li> <li>9月 : 地域おこし研修・交流会（殿下地区）を開催</li> <li>12月 : サンタクロース派遣事業実施</li> </ul> </li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
青年教育事業参加者数	: 4,700 人	青年教育事業参加者数	: 4,856 人
青年交流事業の開催	: 3 回	青年交流事業の開催	: 3 回
成 果 ・ 課 題	各公民館それぞれが工夫を凝らした青年教育事業を実施した結果、参加者数は目標に達しました。既存の青年グループの維持や活性化は、必ずしも順調な地区ばかりではありませんが、青年が地域と関わる機会をこれからも作り続けることで、地域活動の新たな担い手の育成、地域コミュニティの活性化に繋がっていきます。		
	<p>青年交流事業については、目標の交流事業3回を達成しました。新型コロナウイルスの影響で成果報告会を兼ねた交流や、勧誘活動は出来ませんでした。今後も連合青年団への支援に努めます。</p> <p>連合青年団の活動を通して、青年グループの活動を活性化するには、経験や組織力が不足しています。連合青年団の組織と活動の幅をさらに広げるため、引き続き支援を行っていきます。</p>		

28	読書活動の推進	達成度												
<b>実行内容</b>														
目標	<p>子どもたちの読書活動を促進するため、司書による学校への訪問や児童・福祉施設への訪問の充実に取り組みます。</p> <p>また、若者層から高齢者を対象として、市立図書館は郷土資料や貴重書を活用した行事、みどり図書館は子育て世代を対象とした企画、桜木図書館はまちなか施設やアオッサ内各施設と連携したイベントなど、各館の特色を生かした事業を実施します。</p> <p>これらの活動を通して、多くの市民が図書館や読書に興味・関心を持つ機会を創出し、読書活動を推進します。</p>													
	取組内容	<table border="0"> <tr> <td>小学校への訪問</td> <td>: 50 校</td> </tr> <tr> <td>児童・福祉施設への訪問</td> <td>: 55 回</td> </tr> <tr> <td>各館の特色を生かした事業の実施</td> <td>: 97 回</td> </tr> <tr> <td>・市立図書館</td> <td>: 15 回</td> </tr> <tr> <td>・みどり図書館</td> <td>: 35 回</td> </tr> <tr> <td>・桜木図書館</td> <td>: 47 回</td> </tr> </table> <p>福井歴史講座「将軍家茂と皇女和宮」 貴重書棚資料展示「浮世絵で歩く東海道」 越國文庫（古文書）展示「いにしえの京の都」 他</p> <p>子育てファミリー応援講座 ビブリオトーク 上映会「カルメン」「トゥーランドット」「愛の妙薬」 おとなのための音読の会 他</p> <p>ふくいウィキペディアタウン 2019 かんたん工作とよみかせ会 はじめての朗読教室 他</p>		小学校への訪問	: 50 校	児童・福祉施設への訪問	: 55 回	各館の特色を生かした事業の実施	: 97 回	・市立図書館	: 15 回	・みどり図書館	: 35 回	・桜木図書館
小学校への訪問		: 50 校												
児童・福祉施設への訪問	: 55 回													
各館の特色を生かした事業の実施	: 97 回													
・市立図書館	: 15 回													
・みどり図書館	: 35 回													
・桜木図書館	: 47 回													
<b>数値指標</b>														
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>												
<p>小学校への訪問 : 全小学校 児童・福祉施設への訪問 : 50 回 各館の特色を生かした事業の実施 : 92 回 (平成 30 年度) 95 回 (令和元年度)</p>		<p>小学校への訪問 : 50 校 (51 校中) 児童・福祉施設への訪問 : 55 回 各館の特色を生かした事業の実施 : 97 回</p>												
成果課題	<p>小学校への訪問については、各学校の図書館支援員や担当教諭等と連携しながら全ての小学校への訪問に取り組みましたが、新型コロナウイルス感染症対策で学校の臨時休業措置がとられたことにより、3月に予定していた1校の訪問を中止したため、目標を達成することができませんでした。</p> <p>児童・福祉施設への訪問については、新たな施設への訪問に取り組み、目標の実施回数を上回りました。</p> <p>各館の特色を生かした事業の実施については、若年層から高齢者まで幅広い市民を対象にイベント、講座、展示などの広報に努めた結果、目標の実施回数を上回りました。</p> <p>今後も、より多くの市民に図書館や読書に興味・関心を持っていただけるよう、様々な機会の提供や広報に努めていきます。</p>													

29	図書館サービスの拡充	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>みどり図書館と桜木図書館の自習スペースを拡充するほか、市立図書館に飲み物を飲みながら快適に読書や学習ができるスペースを設けることで、図書館の利用を促進します。</p> <p>また、利用者アンケートなど、あらゆる機会を捉えて利用者のニーズ等を把握し、その後の取組に反映することで効果的なサービスの提供に努め、利用満足度の向上を図ります。</p>		
<b>取 組 内 容</b>	<p>利用促進の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市立図書館の自習スペースにおける飲用の許可（4月）</li> <li>・みどり図書館の自習スペース拡充（4月）</li> <li>・桜木図書館の自習スペース拡充（9月）</li> <li>・利用者アンケートの実施（9月）</li> <li>・新規企画事業：「孫育て講座」（9・12月） 「ビブリオトーク」（11月） 「福井市制 130 周年記念 作家講演会」（11月）講師 赤神諒 藤岡陽子 「おとなのための音読会」（12月） 「福井市こどもの本大賞」発表（3月）</li> <li>・読書週間関連事業：「読書筆記のすすめ」（10～11月） 「ことばのリボン 本の帯を作ろう！ in Library 2019」（10～11月）</li> <li>・祝日特別開館の実施：市立図書館 9日 みどり図書館 13日 美山図書館 5日</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>図書館利用者数 ： 721,627 人（平成 30 年度） 742,220 人（令和元年度）</p> <p>市民 1 人当たりの貸出冊数 ： 4.5 冊（平成 30 年度） 4.6 冊（令和元年度）</p> <p>図書館利用満足度 ： 88.9%（平成 30 年度） 89.0%（令和元年度）</p>	<p>図書館利用者数 ： 731,189 人</p> <p>市民 1 人当たりの貸出冊数 ： 4.6 冊</p> <p>図書館利用満足度 ： 89.1%</p>		
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>図書館利用者数は、読書環境の改善や図書館利用の拡大に取り組んだ成果が見られ、2月末までは順調に推移していましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、3月に高校以下の方を対象に来館自粛を要請したことなどの影響により来館者が減少し、目標を達成することができませんでした。</p> <p>市民 1 人当たりの貸出冊数は、様々な新規企画事業のほか、「ことばのリボン本の帯を作ろう！ in Library 2019」をはじめ利用者が参加する事業を実施するなどの取組を行い、目標を達成しました。</p> <p>9月に利用者アンケートを行い、満足度や意見及び提案について調査し、図書館利用満足度については、目標を上回りました。</p> <p>今後は、利用者アンケートでの意見や提案を参考にして、生活に身近な商業施設等への図書返却ボックスの設置に取り組むなど、利用者ニーズに応じたサービスの提供に努めていきます。</p>		

・生涯スポーツを推進し、市民の豊かなスポーツライフを支援します

30	体育施設の整備	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>福井国体・障スポのレガシーを引き継ぎ、市民が安全・安心で気軽にスポーツに親しみ、楽しむことができるよう、体育施設の維持管理に努めます。</p> <p>今後は、利用頻度の低い施設や財政再建計画において廃止の方針が出されている施設について、住民説明会の開催や、借地の返還方法、施設の解体等について検討していきます。</p>		
	<p>○市体育施設利用者数 : 1,069,559 人 (見込み) 目標達成率 85%</p> <p>○既存体育施設改修 : フェニックススタジアム グラウンド整備工事 9月完了</p>		
取 組 内 容	<b>数 値 指 標</b>		
	<b>目 標</b>	<b>結 果 ・ 成 果</b>	
	<p>市体育施設利用者数 : 1,179,140 人 (平成 30 年度) 1,265,000 人 (令和元年度)</p> <p>既存体育施設改修 : フェニックススタジアム グラウンド整備工事</p>	<p>市体育施設利用者数 : 1,069,559 人</p> <p>既存体育施設改修 : フェニックススタジアム グラウンド整備工事 9月完了</p>	
成 果 ・ 課 題	<p>屋外体育施設においては6月に雨天による利用キャンセルが多かったこと、屋内体育施設では新型コロナウイルスの影響により利用が自粛されたことで、利用者数を伸ばすことができませんでした。</p> <p>今後は、市体育施設条例を一部改正し、新年度からの旧美山・清水地区の料金体系を市内の同種施設と統一するとともに、指定管理者を一本化して管理運営することで、サービスや利便性の向上を図り、利用者数の増加に繋げていきます。</p> <p>財政再建計画の中で「機能廃止の方向性」としている施設については、地権者や利用者への説明会において、有効活用や借地の返還について協議しました。今後も、説明会を通して本市の考え方についての理解を求めながら、施設の方針をまとめていきます。</p> <p>また、その他の体育施設については築25年以上経過しているものが多く、順次に老朽化や経年劣化への対応を行う必要があり、令和元年度はフェニックススタジアムのグラウンドの段差を解消する工事を行いました。今後も、競技人口の推移や社会状況の変化に対応するため、機能集約や多目的化等の、ニーズに応じた施設整備を進めていきます。</p>		

31	スポーツを楽しむ環境づくり	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>福井市スポーツ推進計画の基本理念である「生涯にわたりスポーツを楽しむことができるまち」の実現を目指すため、春と秋のスポーツ教室やファミリーミニマラソン大会を開催するなど、運動やスポーツの楽しさを体感できる活動の充実に努めます。</p> <p>また、昨年開催された福井国体・障スポで、市民のスポーツに対する関心もピークを迎えています。これをさらに向上させ、今後のスポーツを楽しむ環境づくりに繋げるため、策定から5年が経過した福井市スポーツ推進計画を見直します。</p> <p>さらに、フルマラソンの開催についても、引き続き関係機関と協議・検討していきます。</p>		
	<p>○福井市スポーツ推進計画の見直し : 5月～7月 関係所属等調査 9月 第1回審議会 11月～12月 パブリックコメントの実施 1月 第2回審議会 改訂</p> <p>○春・秋のスポーツ教室参加延べ人数 : 4,470人 (内訳) さわやか健康体操教室 春 : 1,739人 秋 : 1,565人 元気力アップ健康体操教室 春 : 614人 秋 : 552人</p> <p>○ファミリーミニマラソン申込組数 : 申込組数 530組</p> <p>○フルマラソン開催に向けた取り組み : 7月～9月 県や周辺市町の意向確認 10月～3月 県との協議</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
福井市スポーツ推進計画の見直し 春・秋のスポーツ教室参加延べ人数 : 4,238人(平成30年度) 4,300人(令和元年度) ファミリーミニマラソン申込組数 : 530組		福井市スポーツ推進計画の見直し : 1月改訂 春・秋のスポーツ教室参加延べ人数 : 4,470人 ファミリーミニマラソン申込組数 : 530組	
成 果 ・ 課 題	<p>福井市スポーツ推進計画は策定後5年を経過し、社会情勢が変化したことから、スポーツに対する市民の関心の更なる向上を図るため、本計画を改訂しました。</p> <p>近年の健康志向とスポーツに対する関心が高まっていることから、春・秋のスポーツ教室やファミリーミニマラソンには多くの申込みがあり、目標を達成することができました。</p> <p>フルマラソンに関しては、県や周辺市町の意向を確認しました。その結果、県と連携して大会の開催に向けた準備に取り組んでいくこととなりました。今後は、検討委員会を設立し、北陸新幹線開業後の開催を目指して、大会規模や実施時期、コース案などについて検討していきます。</p>		

・文化遺産を保存継承するとともに、文化財の公開と活用を進めます

32	文化財の保存と継承	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>郷土の貴重な文化財や歴史・文化資源を確実に保存し、次世代に継承するため、計画的に指定文化財の修理・整備を進めるとともに、無形民俗文化財保存団体が取り組んでいる後継者育成事業を支援します。</p> <p>また、越前海岸の水仙畑の景観保全と越前海岸の観光活用のため、国の重要文化的景観選定を目指し、保存計画を策定します。</p>		
<b>取 組 内 容</b>	<p>○文化財の指定等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青木蘭麿堂のケヤキ、クスノキを市指定文化財に指定（5月31日 告示）</li> </ul> <p>○文化財建造物修理の補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大安寺建造物修理 3月</li> <li>・法雲寺本堂・鐘楼修理事業 3月</li> </ul> <p>○無形民俗文化財各種行事の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（国指定）糸崎の仏舞（糸崎町）4月18日開催</li> <li>・（県指定）したんじょう行事（鹿俣町）5月5日開催</li> <li>・（県指定）花山行事（栃泉町）5月5日開催</li> <li>・（県指定）じじぐれ祭（味見河内町）5月5日開催</li> <li>・（県指定）馬鹿ばやし（手寄1丁目）5月24日開催</li> <li>・（県指定）オシッサマのお渡り（本堂町）10月12,13日開催</li> <li>・（市指定）免鳥夜網節（免鳥町）10月13日開催</li> <li>・（県指定）白浜町のアマメン（白浜町）2月3日開催</li> </ul> <p>○「越前海岸の水仙畑」文化的景観保存活用計画策定 3月</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>無形民俗文化財各種行事開催件数 ： 8件 大安寺建造物修理への補助（客殿・塀中門解体、本堂仮設建設） 「越前海岸の水仙畑」保存計画策定</p>		<p>無形民俗文化財各種行事開催件数 ： 8件 大安寺建造物修理への補助（客殿・塀中門解体、本堂仮設建設） 「越前海岸の水仙畑」保存活用計画策定</p>	
<b>成 果 課 題</b>	<p>市内の指定文化財は、新たに市指定天然記念物に2件指定されたことより計186件となりました。このうち8件の無形民俗文化財の行事は、予定通り開催されました。</p> <p>大安寺（国指定重要文化財）が実施する建造物修理事業は、本格的な本堂の修理工事に向けて素屋根が完成しました。今後も国指定重要文化財としての価値を適切に保持し、後世に受け継がれるよう所有者や関係機関と連携を図りながら、支援していきます。</p> <p>また、国選定の重要文化的景観を目指し、越前町、南越前町とともに取り組んできた「越前海岸の水仙畑と農村景観保存活用計画」の策定が完了しました。来年度は国に選定の申出を行うとともに、越前海岸の水仙畑の景観保全と越前海岸の観光・保存活用のため、普及啓発を進めます。</p> <p>修理等が必要な指定文化財については、今後も計画的に修繕・補修等を進め、地域の貴重な文化財の保存に努めるとともに、個人・団体等が所有する指定文化財は、その公開・活用についても所有者、専門家と協議を重ねながら取り組んでいきます。</p>		

33	文化財の公開と活用	達成度									
<b>実 行 内 容</b>											
<b>目 標</b>	<p>地域の歴史・文化に誇りを持ち、さらに理解・関心を深めるため、文化財を身近に触れることができる展示や、昔の暮らしが体験できる魅力的な学習会を開催するなど、文化財の公開・活用に取り組みます。</p> <p>また、文化財保護の意識向上への愛着を深めるため、学校や公民館等と連携した出前事業を進めるとともに、おさごえ民家園では施設の魅力を高め、古民家等の利用促進を図ります。</p>										
<b>取 組 内 容</b>	<p>○展示会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平成 30 年史～ふくい発掘物語～」 (7月22日～9月1日：42日間)</li> <li>・「ふくコレ～昭和の服の民具展」 (10月11日～10月27日：17日間)</li> <li>・「令和元年度発掘速報展」 (2月8日～3月8日：30日間)</li> </ul> <p>○体験学習会の開催 参加者 3,103人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・星の勾玉づくり 43人 ・土器づくり 79人 ・土器行灯づくり 4人 ・土器焼き 17人</li> <li>・布ぞうりづくり 22人 ・組みひもプレスレットづくり 31人 ・福井城跡散策会 20人</li> <li>・貝がらのストラップづくり 45人</li> <li>・端午の節句を楽しもう 493人 ・昔の遊び体験 297人 ・七夕まつり 11人</li> <li>・花火を観よう 320人 ・きもだめし 215人 ・中秋の名月を楽しもう 57人 ・ひなまつり 415人</li> <li>・公民館、児童館、児童クラブ等 1,034人</li> </ul> <p>○出前事業 28回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校 豊小学校、福井南特別支援学校、社中学校、坂井中学校、清水南小学校</li> <li>・児童館、児童クラブ ふじ児童館、すずらん児童館、東安居児童クラブ、鷹巣児童クラブ、清水南児童クラブ</li> <li>・公民館 本郷公民館、豊公民館、国見公民館 ・子ども会 大願寺子ども会</li> <li>・その他 セーレンプラネットユニバース day など講師派遣 6回</li> </ul> <p>おさごえ民家園施設利用件数 40件</p>										
<b>数 値 指 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>									
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">目 標</th> <th style="text-align: center;">結 果 ・ 成 果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化財保護センター及びおさごえ民家園利用者数 ： 13,876人(平成30年度) 15,500人(令和元年度)</td> <td>文化財保護センター及びおさごえ民家園利用者数 ： 15,544人</td> </tr> <tr> <td>体験学習会参加者数 ： 2,174人(平成30年度) 2,250人(令和元年度)</td> <td>体験学習会参加者数 ： 3,103人</td> </tr> <tr> <td>出前事業の開催 : 20回(平成30年度) 25回(令和元年度)</td> <td>出前事業の開催 : 28回</td> </tr> </tbody> </table>	目 標	結 果 ・ 成 果	文化財保護センター及びおさごえ民家園利用者数 ： 13,876人(平成30年度) 15,500人(令和元年度)	文化財保護センター及びおさごえ民家園利用者数 ： 15,544人	体験学習会参加者数 ： 2,174人(平成30年度) 2,250人(令和元年度)	体験学習会参加者数 ： 3,103人	出前事業の開催 : 20回(平成30年度) 25回(令和元年度)	出前事業の開催 : 28回			
目 標	結 果 ・ 成 果										
文化財保護センター及びおさごえ民家園利用者数 ： 13,876人(平成30年度) 15,500人(令和元年度)	文化財保護センター及びおさごえ民家園利用者数 ： 15,544人										
体験学習会参加者数 ： 2,174人(平成30年度) 2,250人(令和元年度)	体験学習会参加者数 ： 3,103人										
出前事業の開催 : 20回(平成30年度) 25回(令和元年度)	出前事業の開催 : 28回										
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>文化財保護センター及びおさごえ民家園の利用者数及び体験学習会の参加者数や、出前事業の開催は、すべて目標を達成することができました。文化財保護センターでは夏休み期間中を中心に来館者の増加や勾玉づくりなどの出前事業の増加、おさごえ民家園では、婚礼前撮り等の撮影会や講演会等による施設使用件数が増加したことによるものです。</p> <p>今後も施設の魅力を高めて、利活用についての情報発信に努め、文化財への愛着と理解を深めます。</p>										